

「サナギから羽化へ (7)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「ロッカーサナギ」の羽化の一瞬は見逃してしまっただが、まだチャンスはたくさん残っている。幼虫からみんなで育てたサナギがたくさんいるからだ。



ある朝、ちょうど子どもたちの登校時刻直前に、そのうちの一匹が羽化に成功した。飼育ケースの中のサナギは羽化に失敗することも多いが、サナギホルダーでは、ほぼ100%羽化に成功する。登校してきた子どもたちは、もちろんその羽化直後のアゲハに気づき、大騒ぎをしている。しかし、子どもたちの関心は、羽化後のチョウよりも、羽化寸前のサナギのほうにあるようだった。上写真で一番手前(左)のサナギである。



「こっこのサナギも色が変わってるよ」「羽化しそうだね」・・・「あれ？サナギ、動いてない？」



ついに、子どもたちが見ている前で羽化が始まった。かなり昆虫が好きな子どもでも、チョウの羽化の一瞬を見たことがある者はほとんどいない。



これがナミアゲハの羽化の一瞬である。サナギの頭部が割れて、中から翅を畳んだ体勢で、身をよじらせながら出てくる。



他のクラスからも集まってきた。小さな命の「羽化ショー」は大盛況で、S席はすでに満席。しかし、学年の大多数の子どもがこの一瞬を共有できた。